

バラフレーズ
～リストによる編曲

—— 当時を映し出す鏡 ——
Chopin & Liszt

リストはハンガリーに生まれ、ヨーロッパ各地で広く活躍した音楽家である。

その中でも20代の大半を過ごしたパリでは、当代きってのヴィルトゥオーソとして一世を風靡し、サロンの寵児であったショパンとも交流を持った。

作曲家としてはピアノ作品の他、管弦楽や声楽のための作品も数多く遺している。リストの業績として特筆すべきは、管弦楽や声楽の作品を鍵盤のために^{バラフレーズ}編曲した点であろう。リストによる^{バラフレーズ}編曲は、他の作曲家の作品を広く世に知らしめたのみならず、当時の音楽受容を映し出す鏡でもある。

Program Note

ショパン:3つのマズルカ 作品59
Trois Mazurkas Op.59

マズルカは、付点リズムを特徴とする3拍子のポーランドの舞曲であるが、ショパンは自身の楽曲にこの様式を取り入れた。作品59は全3曲から構成される。印象的な右手で始まる第1曲、わずか4小節の主題によって全体が構成される第2曲、ワルツ風の第3曲となっている。

ショパン:舟歌 作品60
Barcarolle Op.60

19世紀に広く作曲された「舟歌」は、ヴェネチアの gondola 漕ぎの歌を模した楽曲である。波間に揺れる gondola の伴奏に乗せて、右手がカンツォーネを歌う。ショパンの《舟歌》の繊細さは、夜想曲をも思わせる。序奏の主部では後2つの主題が歌われる第一部、イ長調へと転調するブリランテな第二部、カデンツァをともなった第三部から成る。

ショパン:英雄ポロネーズ 作品53
Polonaise héroïque Op.53

フランス語で「ポーランド風の」という意味を持つポロネーズもまた、ショパンが自身の作品に導入した民俗舞曲である。《英雄ポロネーズ》はその呼び名に相応しく壮大かつ華麗で、難易度の高さあいまってショパンの最高傑作に数えられる。序奏付きの三部形式で、力強く明るい主題を持つ主部と、駆け抜けるような中間部から構成される。

リスト:メフィスト・ワルツ 第2番
Mephisto-Walzer Nr. 2

悪魔メフィストとファウストの伝説は、多くの芸術家にインスピレーションを与えた。リストもこの伝説に魅せられ、4曲のメフィスト・ワルツを作曲している。今回演奏される第2番は、元来管弦楽のために作曲され、その後ピアノ編曲された。冒頭と終結部には悪魔の音程として知られる三全音が使用され、メフィストの象徴となっている。

シューベルト=リスト:セレナーデ
Serenade

歌曲集『白鳥の歌』に収められた〈セレナーデ〉は、シューベルトの歌曲中、最も有名なものに数えられる。恋人に対する思いをマンドリン風の伴奏の上で歌い上げる。この珠玉の作品をリストはピアノのために^{バラフレーズ}編曲した。



リスト:愛の讃歌(詩的で宗教的な調べより)
Cantique d'amour – Harmonies poétiques et religieuses

リストとも交流のあった詩人、ラマルティエヌの詩集に基づいて作曲された『詩的で宗教的な調べ』の第10曲。序奏を伴ってゆるやかに幕を開けるが、神秘的なベールを脱ぐかのように、次第にダイナミックで華麗な音楽が姿を現す。鍵盤を大胆に使用した技巧的な作品。

グノー=リスト:ファウスト・ワルツ
Valse de l'opéra Faust

ゲーテの戯曲『ファウスト』は、同時代や後世の音楽家に多大な影響を与えたが、グノーによるオペラ化はその最たる例である。リストはグノーのオペラをさらにピアノへと^{バラフレーズ}編曲した。〈ファウスト・ワルツ〉は、オペラ第2幕で主人公がヒロインに近づく場面で奏される。リストは管弦楽の色彩をみごと鍵盤の上に描き変えてみせた。

曲目解説：藤田 瞳 (ふじた・ひとみ)

